

Student Suggestion Boxへの投書に対する回答

(意見) :

5月28日に総合教育研究棟を通りかかったところ、次のような掲示が目にとまりました。

新入生の皆さんへ

7月12日(土)に行われるTOEIC-IPの申し込みは終わりましたか?

TOEIC-IP受験は、新潟大学の英語カリキュラムの一環になっています。これを受験しておかないと、皆さんが2学期に基礎英語や発展英語を受講する際に支障が出て、結果的に時間割の組み立てにも困難が生じます。

まだ申し込んでいない人は、生協書籍部で至急申し込んでください。

全学教育機構授業科目開設部門
英語部会

これを読んで、「これはもしかして“英語のクラス分けにTOEICのスコアを使用するから、自腹で受験しなさい”という案内なのかな?」と感じましたが、確証が持てなかったため、Gコード科目の履修ガイドを読んでみました。

すると、履修ガイドの5ページに、

*新潟大学では、1年生全員がTOEICテストを受験することになっています。

という記述と、

*受験料は本人の自己負担で、3,500円

という記述が見られました。また、履修ガイドの3~5ページには、1学期末に受験するTOEICのスコアを用いて、2学期のクラス分けを行うという内容が書かれていました。

つまり、「2学期の英語のクラス分けに、TOEICのスコアが必要だ」という大学側の都合で実施するTOEICの費用を、学生に負担させるということです。年間535,800円の授業料を納めているにもかかわらず、さらにこのような負担が課せられるのは理解に苦しみます。

そこで、現在の英語教育カリキュラムの作成に携わった方々に、いくつかお伺いしたいと思います。

- 1.大学の講義のクラス分けのために行うテストとして、学内独自のテストではなく、TOEICを用いることにしたのはなぜでしょうか。
- 2.クラス分けという、いわば大学の側の都合で行うテストの代金を、学生に負担させることにした理由は、どういったものでしょうか。
- 3.そもそも、英語の講義にクラス分けは必要でしょうか(私自身は、旧カリキュラムで自分で講義を選択して受講していましたが、特に不都合は感じませんでした)。大学側でクラス分けをすることにした経緯を教えてくださいませんか。

上の3点について、お聞かせ願えればと思います。

乱文失礼しました。それでは、宜しくお願いたします。

追伸

19年度分の Student Suggestion Box の回答を見ていたところ、4月の投書に対する回答が、8月に作成されていました。お忙しいとは思いますが、もう少し迅速にお返事をいただけるとありがたいです。

(回答)

問1

「大学の講義のクラス分けのために行うテストとして、学内独自のテストではなく TOEIC を用いることにしたのはなぜでしょうか」

【問1への回答】

質問者にまずご理解頂きたいのは、「大学の講義のクラス分けのため」に TOEIC を導入したのではない、という点です。「共通英語」に TOEIC を導入した目的は、あくまでも、第1 Semester 後半段階での各自の英語運用能力を、学外でも通用する客観テストにより測定し、第2 Semester 以降の学習の方策の立案に役立ててもらうことです。TOEIC の成績上位者には「基礎英語」「発展英語」などの単位を認定することにしたのは、上位科目をより早い Semester から履修できるようにし、高度な英語運用能力の涵養を図ってもらうためです。逆に、TOEIC で規定の点数に達しなかった者は、「共通英語」の成績とは別に、客観的に見て英語力にまだ不足している部分があると判定され、「基礎英語」を受講することで引き続き英語の基礎力の充実を図ることになります。また、TOEIC400点台の学生と200点台の学生とでは、やはり英語の基礎力に差があることは明白ですので、点数順にクラス分けを行い、比較的上位の「基礎英語」クラスと下位の「基礎英語」クラスとでは、授業に使用するテキスト、進度、説明内容などに配慮することができるようにしたわけです。以上申し上げたように、TOEIC スコアの「基礎英語」クラス分けへの利用は、あくまでも上記の副産物にすぎません。

問2

「クラス分けという、いわば大学の側の都合で行うテストの代金を学生に負担させることにした理由はこういったものでしょうか」

【問2への回答】

この TOEIC は「共通英語」履修者のみが受験する、つまり全ての学生が受験するわけではない（法学部の新入生で英語以外の外国語を選択した学生や、既に TOEIC を受験したことがあり、規定の点数に達している者は受験を要しない）ことから、受講する授業科目によって購入することを求められる教科書や参考書等と同様、受益者負担としています。

年間受験者が160万人を越える（2007年度）TOEIC は、正式な公開テストでは1回の受験料が¥6,615（税込み）になりますが、新潟大学は TOEIC の賛助会員（入会金として正会員1口50万円、年会費10万円）となつて会費を負担しているために団体特別受験制度（TOEIC-IP）を実施することができ、受験料もほぼ半額の¥3,500 になりました。

また、企業では TOEIC で一定以上の点数を収めていることが昇任の際の条件になったり海外勤務予定者（技術指導者を含む）に受験を義務づけたりするなど、幅広く利用されている公的英語試験であり、その実用度は英検よりも高いと言えます。TOEIC-IP といえども、就職活動の際に履歴書への記入が認められており、キャリア形成に資するものであつて、これもまた受益者負担としている理由です。他の国立大学でも学生から

受験料を徴収するところが大半を占めています。

新潟大学では、各学生が自身の英語力を確認し自分のペースで自学自習できるように、Net Academy という英語自習教材 (TOEIC 受験準備講座を含む) を平成18年度から段階的に導入してきました。平成20年度からは英語を選択した新入生全員がこれを利用できるようになりましたが、このインターネット教材の購入に際して大学はかなりの投資をしています。このように、あくまでも学生の英語力を担保するという発想から導入されていることをご理解頂きたいと思います。

問3

「そもそも、英語の講義にクラス分けは必要でしょうか (私自身は旧カリキュラムで、自分で講義を選択して受講していましたが、特に不都合は感じませんでした)。大学側でクラス分けをすることにした経緯を教えてくださいませんか。」

【問3への回答】

平成16年度に学内で独自の英語試験を作成し、試行的に人文・理・工学部の新入生全員を対象に実施したことがあります。これは、最近の新入生の中に、高校までに履修しているはずの事項が定着していない者が多く見受けられ、全学向けの英語授業運営に支障を来すことが多くなったため、実際にどの程度の学力差が同一学部内にあるのかを確かめるためです。

その結果、同一学部の新入生でありながら、100点満点で10点台から80点台まで差が出たことに試験問題を作成した英語教員一同は驚愕しました。これまでどの英語の授業を取るかは各学生の選択に任せていたわけですが、実は同じ授業を受けている学生の英語力には相当な格差があったことを今さらながら確認させられたわけです。

従来、理工系の専門学部の教員からも、専門課程に進学してくる学生の英語力低下が指摘されてきており、入学段階で既にかかなりの学力差が生じていることが明らかになった英語の授業においては、習熟度別にクラス分けを行って、よりきめ細やかな対応をすることが是非とも必要であるという認識を英語教員は共有するに至りました。それ以来、受講生の学力に応じてテキストの選定から授業進度、説明内容の水準まで考慮することが各英語担当教員全員に求められるようになり、今日に至っています。

ちなみに、新カリキュラムが導入された平成17年度の年度末に英語を選択した全学生を対象にしたアンケートを実施し、習熟度別クラス分けの是非について尋ねたところ、6割の学生が積極的評価をしました。また、TOEICを受験したことによる満足度は成績優秀者のグループ (TOEIC470点以上を収めた、全体の上位約3分の1の学生) では肯定的評価が9割近く、残り3分の2の学生の回答でも肯定的評価が5割に達していました。